

投資に役立つ

経済ワード

Vol.9

イールドカーブ

イールドカーブ（利回り曲線）とは、縦軸を「債券の利回り」、横軸を「満期日までの期間」として、それぞれの関係を表したものです。

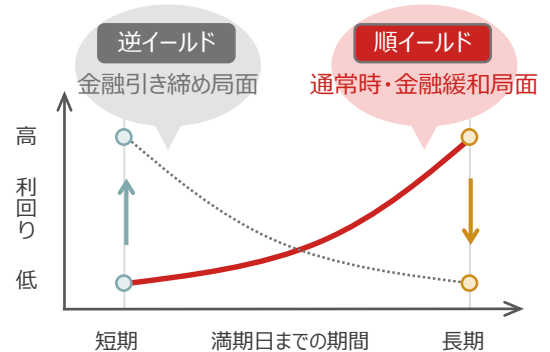
国債などの同一種類の債券を見たとき、通常、満期日までの期間が長い程、利回りは高くなります。

通常、順イールドに

満期日までの期間が長い程、満期までの債券価格の不確実性が高まります。そのため通常、長期金利は短期金利より高く、イールドカーブは右上がりとなり、この状態を「順イールド」と言います。逆に短期金利が長期金利より高く、イールドカーブが右下がりとなることを「逆イールド」と言います。

「逆イールド」は、景気過熱抑制のために行なわれる金融引き締め局面で見られることがあります。金融引き締め（利上げ）により短期金利が上昇する一方、将来の景気悪化による金利低下を市場参加者が予想することで長期金利は低下するためです。

■イールドカーブのイメージ



上記のイールドカーブはイメージです。全てを説明するものではありません。

日本のイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）

日本銀行は経済を刺激するために、大規模な国債買入れを行ったり、政策金利（短期金利）をマイナスにする「マイナス金利政策」を導入したりすることで市場に出回るお金を増やしてきました。これらの政策に加え、日本銀行がマイナス金利政策継続への意欲を示したことで、市場参加者が将来も低金利が継続すると予想したことなどから、「短期金利」だけでなく「長期金利」までもが大きく低下し、マイナスとなってしまいました。

短期金利から長期金利までの幅広い期間の金利が低下したことで、住宅ローンや企業への融資は増加したものの、短期金利で資金を調達し、長期金利で企業や個人に貸出をしたり、長期国債で資金を運用する金融機関にとっては、長短金利差の縮小は収益力の低下をもたらします。そして金融機関の業績悪化は経済活動への悪影響になりかねません。

そこで2016年9月、これまでの短期金利の操作に加えて、長期金利も操作するとしたのです。これをイールドカーブ・コントロールと言い、「短期金利の操作（利上げ・利下げ）はできても、長期金利を完全に操作することはできない」と言われる従来の金融政策と比べ、革新的な金融政策として注目を集めています。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。